

令和2年度神戸市人と猫との共生推進協議会 第3回定例会議録

1. 日 時

令和3年3月16日（火）14:00～16:00

2. 場 所

神戸市勤労会館 4階 403 会議室

3. 出席者

(1) 構成団体 12 団体の内 9 団体出席（規約第 6 条第 2 項の規定により会議成立）

(2) 出席者氏名 資料 1 出席者名簿のとおり（一般傍聴者 0 名）

4. 議 事

【報告事項】

(1) 野良猫の繁殖制限事業について（令和3年2月末現在）資料 P2～5

・本年度に地域猫活動等の支援申込は 133 件あり、申込による手術の対象猫の数は 880 匹であった。情報提供は、55 件あった。

・一方、今年度も含め、既に支援を行った地域から猫の TNR について追加で申込があった地域は 232 件あった。

・事業部会で承認し、支援を行ったのは、今年度に新規支援申込があった地域が 128 件、過去の年度に申込があり今年度支援した地域が 34 件あり、計 162 件だった。なお、このうち重複している地域は 36 件あった。

・今年度も含め既に支援をおこなった地域で、追加の申請があり、本年度 TNR を行った地域が 237 件あった。

・手術については、全市で 310 の地域に対し 1,980 匹実施し、最終的に本年度は 2,190 匹程度になる予定。長田区が実施地域数 62、手術数 363 匹といずれも最も多く、次いで垂水区の 327 匹、兵庫区、北区、西区は 200 匹台、東灘区、中央区が 100 匹台で、灘区が最も少ない 49 匹である。

・雌雄の別では、雄 986 匹に対し雌 994 匹と差はなく、ほぼ 1:1 となっている。

・TNR の検証として、年度ごとに新規で支援を受けた地域について、翌年度以降の手術数の増減を調べたが、いずれの年度も、翌年度以降減少し続けている。一方、年度ごとの新規の手術数は、初年度の H29 年度を除き 900 匹台と減少していないが、こちらも減少に転じれば

より効果が出ていると考えられる。

・協議会事業の実績をプロットマッピングで見える化した。支援状況マップでは、市街地での支援申込や情報提供が多く、特に中央区から垂水区にかけて多いことがわかる。また、手術状況マップでは、申請マップと同様に市街地に大きな円が重なり、特に中央区から垂水区にかけて TNR 活動が盛んなことがわかる。

(2) 寄付・募金について…資料 P6

・3月10日現在、4,931,110円の寄付、募金があった。構成団体のフェリシモ、あいおいニッセイ同和損保からも寄付をいただいている。今後は、獣医師会の各動物病院に設置している募金箱からの募金が寄せられる予定である。

【協議事項】

(1) 令和3年度事業計画暫定案…資料 P7

・例年通り野良猫に関する情報を基に毎月1回開催する事業部会で繁殖制限対策区域を策定し、TNRを進めていく。手術数としては、当初予算の見込みから1800匹程度を予定している。このほか、TNRの検証、協力者の募集、登録も引き続き実施する。

・ガイドラインの周知、不適正な給餌者に対する指導啓発の実施とともに、コロナの状況を踏まえながら研修会やイベントの開催も検討する。

・協議会主催の譲渡会をコロナの動向を見守りながら開催の検討をする。このほか、市内の譲渡会の開催情報を提供していく。

・定例会議、事業部会の開催や寄付金、募金集め、神戸市との連携や情報の共有を図っていく。

(2) 来年度の予算暫定案…資料 P8

・収入として、16,490,000円を見込んでいる。内訳は、神戸市からの補助金として13,619,000円（予定。昨年度と同額計上）、このほか、繰越金として165,000円、募金、寄付として2,706,000円を見込んでいる。

・支出として、1,800匹分の野良猫の繁殖制限事業として15,512,000円、指導啓発として60,000円、猫の譲渡推進事業として120,000円、定例会議費として66,000円、事務費として500,000円、保険料132,000円、予備費として100,000円で収入と同額の合計16,490,000としている。

・参考として、令和2年度の収支予算見込みを9ページに記載している。

※令和3年度事業計画暫定案、予算暫定案ともに承認された。

【連絡事項】

(1) 神戸市より

- ・こうべ動物共生センターについて、概要図の説明及び業務管理委託をプロポーザル方式で公募する。
- ・市のふるさと納税が大幅に減少しており、ガバメントクラウドファンディングでの情報発信や返礼品の強化を図る等の対策を検討している。

(2) 出席者より

- ・コロナ禍で猫バスの活動が停止しているが、オンラインによる譲渡会を名古屋、福岡で開催しており、神戸も始めたい。また、バスの車内の換気を強化し、再開の準備をしている（ネスレ）。
- ・コロナ禍で在宅が長くなり、ペットの需要が増えているが、世話が大変という理由などで引き取ってほしいという相談が増えている（猫のミーナ）。
- ・公園で地域猫活動がしやすいように、生活衛生課が建設局に働きかけをしてほしい（猫ネット）。地域猫活動の団体登録申請で公園が含まれる場合は、生活衛生課が公園担当部局と調整をしている。個々の事例で何かあれば別途対応する（生活衛生課）。
- ・協議会が直営でTNRをする場合、ボランティアへの実費負担の額が少ない。現場での課題として認識してほしい（猫ネット）。猫のTNR数の減少が見られない現状では、実費負担を増額することは難しい（事務局）。
- ・本社が移転し、5月には初めて本社屋で譲渡会を開催する。2月22日の猫の日を記念して爆笑問題の田中裕二とコラボして耳カットの猫のイラストを配した商品を販売した。販売をしていく中で、耳カットがまだまだ知られていないことを感じた（フェリシモ）。
- ・定款にSDGsの推進を盛り込んだ。紺綬表彰の公益団体として認定された（Knots）
- ・地域猫活動をする際に自治会の理解が得られないことが多い。多くの自治会長は野良猫に対する理解がない（猫ネット）。自治会によっては、猫活動家と住民の間に入ってうまくいっているケースもある（動物福祉協会）。必要であれば地域猫について出前トークを活用してほしい（生活衛生課）。